

【めむろ未来ミーティング】

令和7年 11 月 28 日（金）

10:00～12:10

めむろ彫刻をめぐる会、ピース ネット・メモロ、めむろ歴史探 訪会、NPO 法人まちづくりプラ ットホームめむろ

■参加者 7人

■芽室町 町長、生涯学習課長、社会教育係長、社会
教育係主査、広報広聴係長、広報広聴係

- 1 町長挨拶
- 2 参加者紹介
- 3 意見交換

●町長挨拶要旨

対話の機会を大事にしているが、最近このような機会が少なくなってきたこともあり、今回お申込みいただきありがたい。今日は各団体の皆さんの活動の状況やご提案をお聞きしたいので、ざっくばらんにご意見をいただきたい。

●まちづくりプラットホームめむろ

今回集まった3団体とは、町民活動支援センターで意見交換を実施した。その際に、郷土史・文化財の保全活用について共通の課題認識があったことからぜひ町長と対面で話をしたいという声が上がリ、今回この場をお願いした。文化分野で活動している団体が、どんな思いや考えを持っているのか、顔を合わせながら、お伝えしたいことを一緒に話す場にしたい。また、情報の収集・活用という点でも、提案をさせていただければと思っている。

◆意見交換（テーマは別紙次第のとおり）

●めむろ彫刻をめぐる会

彫刻作品の管理は複数の部署で行っているのか。

●生涯学習課長

彫刻は町内の色々な場所に設置されている。その中で、寄贈や設置の経緯によって、都市計画担当で管理しているものもあれば、体育館にあるもののように体育館で管理しているというように所管が分かれている。住民の皆さんからすると窓口を一本化した方が分かりやすいということも理解しているので、その点については、内部で考えていく必要があると感じている。

●町長

維持管理は、例えば敷地内にあるものは、図書館であれば図書館、体育館であれば体育館という管理になっている。皆様のご要望としては、どちらかというと彫刻全体を横串で見た管理にした方が良いのではないかということかもしれない。窓口が分かりにくいという課題は確かにあるので、今回のご質問をいただき「一元化」まで行けるかどうかは別としても、検討の余地は大いにあると感じている。

●めむろ彫刻をめぐる会

活動を始めたばかりではあるが、知りたい時にどこへ聞きに行けばいいのかが分からない時がある。例えば、病院の敷地にある作品なら病院なのかと思うが、実は都市計画上の配置計画の中で置かれたものだったりする。それぞれ所管が違うのは分かるが、全部を一緒にしなければならない、というよりは、ここへ行けば教えてもらえるという窓口が分かるとよいと感じている。

●町長

情報として、例えば町内の彫刻が一覧としてまとまっていて、所管も含めて書いてあるようなものがあると良いのかもしれない。

●めむろ彫刻をめぐる会

今は私たちが彫刻を清掃したいと言うと、都市経営課で腕章や清掃用具などを用意してくれていて、ひびなど、清掃の際に気づいたことがあれば報告している。

しかし、彫刻は「文化財」という面もあると思っているので、補修やメンテナンスなどよりも、まず「文化財」として一括りにしたリストのようなものが生涯学習課などの教育委員会にあった方が良いのではないかと感じている。私が一番初めに彫刻をめぐる会でマップを作りたいと思った時には、教育委員会に行ったらリストはあるか確認した。多くの方も、文化財といえば教育委員会だと思うのではないかと。彫刻も絵画などと同様に、文化的なものとして捉えていただきたいという思いがある。

●生涯学習課長

社会教育係では文化財の審査委員会を持っており、今、町の指定文化財は「柏の木」の1件だけである。

●めむろ彫刻をめぐる会

私たちが言う「文化財」とは町が指定するようなものではなく「文化的なもの」ということ。書道や絵画、彫刻や記念碑など。特にモニュメントは記念碑であり彫刻であるというような重なりがあるので、そのような意味で一括管理してはどうかという思いである。

●生涯学習課長

絵画については、一部ホームページ上で所蔵作品の紹介をしているが、それも含めて少しずつ整理を進めていきたい。

●町長

例えば、公共施設に飾られているものを我々がきちんと把握しリスト化することはできると思う。一方で、所蔵している作品は何百点もあり、全てをリスト化して公開するのが理想ではあるが、実際にはあまり目に触れない作品も多い。その整理が必要だと感じている。皆さんが実際に見られるような彫刻も含めて、そうしたものをリスト化し「町内のこういう場所にこういう作品があります」とホームページ等で紹

介するというやり方であれば、できるのではないかと感じている。今一度データの整理を進めたい。

●まちづくりプラットフォームめむろ

彫刻をめぐる会で作ったリストがあり、随時更新している。そこに町の情報も載せていくという形も考えられる。

補修はどのように対応していくのか。

●生涯学習課長

作品によっては、直した方がいいのではないかと意見がある一方で、そのまま風化していくのが作者の意図という場合もある。そのような作者の想いも踏まえて、補修等の対応は個別に検討させていただくが、気づいたことがあればお知らせいただければと思う。

●町長

皆さんからいただいたご意見や情報をそのままにしておくことはない。いろいろな作者の意向があり「修繕しないでください」というものもあるかもしれないが、そのような場合も含めて「こういう結論で、こうなりました」とお伝えする必要があると思っている。そこは、内部でしっかり連携を取りながら対応していく。

●めむろ彫刻をめぐる会

旭川市は彫刻で有名であり、彫刻サポート隊事務局という、彫刻の掃除を中心に活動されている事務局がある。そこでは掃除のマニュアルを作成しており、連絡するとマニュアルを提供していただけたので、それを活用して掃除をしている。

今回、修復の基準のようなものについて、参考になればと思い旭川市に電話をして聞いた。旭川市でも、制作から50年ほど経っているブロンズ像が多いが、まだ体系的な修復計画は持っていないとのことだった。

ただ、市民から危険なので直してほしいという声があった場合には、補正予算で修繕しているそうである。

50年ほど経っているのでそろそろ基準を作らなければいけないと考えているとのこと。芽室でも最も古

いブロンズ像は47年前後経っているので、半世紀近く経ち、補修や基準づくりが必要な時期に来ていると感じている。

●町長

道路や公園、橋などの公共インフラも含めて、老朽化が激しい。考え方としては、彫刻と同じで「長寿命化計画」という言い方になると思うが、そういう計画を立てていくのは一つの方策だと考える。

●めむろ彫刻をめぐる会

壊れてしまって危ないものは予算化して直すのか。

●町長

危険な状態のものは何かあってからでは遅いので、早急に対応せざるを得ない。危険度によって優先順位をつけることになるが、補正予算での対応も十分あり得る。

●まちづくりプラットホームめむろ

データの整理の話が先ほど出たが「どのようなものを、どのようなデータとして整理していくか」「会の方に集まっている情報も含めてどのような形にまとめるか」という点について、町と団体で細かく連絡を取り合いながら進めていければと思う。

●町長

仰るとおりで、お互いの情報を合わせながら、双方が納得できる形で「リストに載せましょう」という形にしていくのが良い。

●めむろ歴史探訪会

実は3年ぐらい前に、有志5～6名で町内の記念碑を見て回った。記念碑については今のところ地域で守られているというのが現状である。ただ、彫刻とは少し違うが、二宮金次郎像は各学校の校庭に残っているものの、平和辺りの像は、もう朽ちて壊れている。そういうものはかなり危険度が増している。そういった点検もなかなかできず、学校にあるものは学校用地として今は管理されていると思うが、そのような記念碑類に

についてもデータ化を行い、どこにどのような記念碑があるのかを整理して、彫刻と同じように、一つの枠組みの中で扱えるようにしていければと感じている。

記念碑については、かつては50基以上あったが処分されたものもあり、だいぶ数は減ってきている。そういう状況なので、残せるものはデータ化することが大事。神社関係についても同様で、今、神社関係をテーマに広報すまいるに掲載しているが、私たちが調べ出してからの間にも、無くなった神社がいくつもある。このように、歴史はどんどん変わっていくので今のうちにデータ化できるものはデータ化しておくことが必要だと考えている。

●町長

リスト化にあたってはどこまでを対象にするかということも必要だと思うが、どの範囲をどのように扱うかという点は協議させていただきたい。闇雲に全部を対象にすることは難しい可能性もあるので、そこは協議の中で進めていきたい。

●ピースネット・メモオロ

ピースネット・メモオロは、今から十一年前に発足した団体である。退職教員や現職の教員が、日常の学校現場でできなかったことなどをやってみようということで、主に、戦争体験の聞き取りや、平和に関する活動を続けてきた。直接伺ってお話を聞き、体験集としてまとめた。その方々と直接向き合ってお話を聞きながら、ピースネットのメンバーと一緒に、体験者との交流を続けてきた。実際に聞いてみると、芽室の話でも知らなかったことがたくさんある。普段、町の中で何気なくすれ違っている高齢の方々が、こんな経験をしたのかと痛感している。

そうした中で、今回の質問は2点ある。いただいた回答を読んでもみると、10年前、戦後70年のときに町議会へ提出した「意見書」に対しての町長回答と、ほぼ同じ文面になっている。この10年で取り組みがあまり変化していないのではないかと感じた。それぞれにいろいろな事業をやっておられるとは思いますが、10年前と変わらないという印象を持った。その中で、平和推進事業という言葉が出てくるが、本当に平和推進事業とい

うものやってきたのだろうかと感じている。平和に関する取り組みを、もっと過去から継続的にやっていけば、幅広いことが実際にできていたのではないかと感じている。

これから子どもたちに、どう関わってもらおうかということも大事である。町には資料館などの施設もある。学校の中では、それぞれ学校の独自性があり、独自の判断やカリキュラムがある。それぞれの担任の先生が、自分の教育観や価値観を持って授業を組み立てている。だからこそ、そういう中で、特に戦争関係のことに力を入れている先生がいれば、その方のカリキュラムの中で、戦争体験をうまく取り込んでいる場合もある。

例えば、西小学校では、参観日のときに子どもと親と一緒に戦争体験を聞く場を設けたことがあった。体験をお話ししてくださったのは、体験集第3集に載っている方である。そういう取り組みが、継続とまではいかなくとも、少しずつ行われていけば、親子で戦争のことを知ることができると思う。やはり平和推進事業というものをもっと取り上げてほしいと感じている。

2点目は非核宣言。現在、庁舎に垂れ幕が設置されている。それは分かるが、宣言をした以上、その中身として、どういうことをこれまでやってきたのか。過去に、原爆のパネル展を1回、図書館でやったことがある。その資料が図書館に残っている。私の記憶では1回くらいで、それ以降、継続的に行われてはいないように思う。宣言をしたからには、その後どう取り組んでいくのかということが大事であり、原爆パネル展のような取り組みも1回きりではなく継続性があるとよいと思う。

芽室中学校でも、パネル展示をやっているが、このようなこともやっていかなければならないと思う。

●町長

平和推進事業の具体的なものについては、仰るとおりあまりやれていないというのが実態。私としても、戦後80年になり、語り部の方もだんだん少なくなっていく中で、戦争の悲惨さをしっかり継承して伝えていくことは重要だと考えている。学校にはそれぞれのカリキュラムがあるが、その中で、教育委員会として戦争の部分をどう伝えていくのかを問いかけていくことが必要だと思う。

今の取り組みとしては、コミュニティ・スクールの中で、地域の人も含めて情報や体験を伝えていこうという形をとっている。その一つが、先ほど話のあった芽室中学校でのパネル展示などである。パネル展示を見ると気持ちが変わるというか、人間として戦争の悲惨さを強く感じる。特に子どもたちには、そうしたものをしっかり心に刻んでもらうことが重要だと思うし、大人にとっても同様である。

今は芽室駅前にも、非核宣言の関係の表示を設置している。これは議会で「非核宣言をしている中で、今どうなっているのか」という質問を受けたことがきっかけであり、庁舎の垂れ幕だけでなく、駅前にも表示をとということで設置したものである。

仰ることは、本当にそのとおりだと思うので、まずは、教育長、特にコミュニティ・スクールも含めた教育委員会の担当に、しっかり話をして、今後の取り組みをどうしていくか、検討させていただきたい。

正直申し上げて、今までは10年前と同じだということご指摘の通りやっていないというのが実態だと思う。隠すつもりはなく、私にもその責任があると感じている。これから、どのように取り組んでいくかを検討させていただくというのが今お答えできるところである。

芽室町内で、今も戦争を語れる方はどれくらいいらっしゃるのか。

●ピースネット・メモオロ

町内の方の情報はなかなか届いていないため、直接お話を聞くことは、本当に難しくなっている。

●めむろ歴史探訪会

パネルで引き継いでいくことも大事だが、映像化して残すという方法も有効である。

●まちづくりプラットホームめむろ

戦争体験などをコミュニティ・スクールの中のテーマとして取り組んでいけるのではないかと考えている。学校教育には教育課程編成があり、先生方はそれぞれの独自性を大事にして授業を組み立てている。そこへ、どんなに良いものであっても「これをやれ」と押し

付けるのは、難しい面がある。そういう意味では、芽室学という形で取り組みを進め、コミュニティ・スクールの中で、芽室の歴史や戦争体験などを扱っていくことが一つの方法だと思っている。実際に、芽室中学校などでも、そうした動きがあるが、それが一回きりで終わってしまわないよう、押し付けではなく、自然に広がる形で促していけるとよい。教育長とも、そういう話をしていきたいと思っている。

戦争体験を話せる人が本当に減ってきているので、聞き取りをされた方々が、今度は子ども向けに分かりやすい言葉で伝えていく、という役割を担えるといいという話も出ている。子ども向けの資料にしたいという構想もあるが、スタッフ不足などの問題でなかなか実現していない部分もある。とはいえ、ここまで材料が集まってきており、DVD など映像の財産もできつつあるので、そういったものを組み合わせて、子どもたちにも伝えられるような形にしていければと考えている。そのためにも、今どんな財産があるのかを整理し、伝える場があればいいと思う。

●町長

少し消極的に聞こえるかもしれないが、やはり学校運営は学校運営で、それぞれの学校の考え方がある。もし何かをやるのであれば、ある程度統一的に取り組みたい気持ちもあるが、一方で各学校の考え方も尊重しなければならない。

そういった意味では、生涯学習、つまりコミュニティ・スクールや社会教育の枠組みで取り組むという角度もあり得ると、お話を伺いながら感じた。学校ではやらないという意味ではなく、それぞれのカリキュラムがある中で、授業として一律に入れるよりは、生涯学習的な感覚で取り組む方が、今後もつながっていきやすいのではないかという発想である。

●まちづくりプラットホームめむろ

学校や先生方に「今、芽室の財産としてこのような資料がある」ということが、なかなか伝わっていないと思う。知られていなければ、選びようもないので、まずはこういうものがありますと伝え、そのうえで学校側が選択できるような状況をつくるのが大事だと思う。

●町長

今日のこの意見交換の記録は残るので、教育委員会とも話をしていきたい。

●まちづくりプラットホームめむろ

もし機会があれば、皆さんと一緒に教育長とも意見交換できる場が持てるとよい。これまでの各学校での取り組みや、皆さんが集めた多くの資料などを、教育長にも直接見ていただける機会をつくれたらと思う。

●めむろ歴史探訪会

私たちの会は、今、15 年目の活動に入ったところである。ちょうど町民活動支援センターができた頃くらいから活動を始め、ずっと支援センターにお世話になりながら、協力をいただけて続けた。

活動の中で、9 年前に「芽室の歴史探訪」という冊子を発行した。これは、町の予算 50 万円をいただいて作成したものである。かなりきちんとまとめたつもりだが、今見直すと間違いもあり、修正すべき点が何点かあるので、見直しをかけなくてはと思っているところである。また、広報すまいるに「芽室の歴史探訪」というコーナーを連載しており、今は 124 回まで来ている。もう 1 年くらいは続けたいと思っており、それでだいたい一区切りがつくかなと考えている。読んでくださる方からは「人物についても取り上げてほしい」という声もある。人物像も、きちんと解説を付けて紹介していかねばならないと思っている。

会としては、バスを利用して探訪するようなツアーをしていたが、バス代も高くなり、コロナ禍もあったため、3 年ほど休止していた。昨年からは復活し、バスツアーを年 2 回実施している。昨年度は上士幌と大津、今年は広尾・鹿追方面へ出かけた。町内・町外から参加者を募り、25 人ほどでツアーを行ったが、他の町村の方と一緒に回ることで、連携もでき、新たな歴史のつながりの発見もあり、とても楽しいバスツアーになっている一方で、バス代が高いため、今後どうしていくかが課題。

前回、平成 30 年の意見交換の際に提出した要望への対応であるが、史跡の案内板の設置について前向きに検討したいとの回答をいただいている。今までに 25 か所ほど設置候補を提示しているが、新たに加え

たい場所も出てきており、もう一度見直しが必要だと思っている。私たちの会として、いろいろなデータや資料を持っているので、そうしたものは今後とも協力して提供していきたいと考えている。

また、資料のデータ化については、図書館やねんりんなどに、非常に貴重な資料が持ち込まれ、蓄積されていることは分かっている。しかし、私たち一般の人には、どんな資料があるのかが分からない。どのような資料があるのかが分かるように、データ化して整理しておく必要があると思う。

国交省からの予算で、古い建物を調査したことがある。町の建設担当と建設協会と三者で 350 万円の予算をもらい、調査結果をまとめた。その報告書が一つのデータとして残っている。また、ある大工さんから家の倉庫に公文書のような資料があると教えてもらい、見せてもらったところ、終戦直後から昭和 21 年ごろにかけての、町から出された公文書が束になって残っていた。当時は今のように広報紙がなく、回覧板で「こういうことがあります」と伝えていた。その原本が出てきたのである。それを今なんとかまとめたと思っており、ピースネット・メモオロさんの協力も得ながら、見やすいデータにしようと考えている。戦争に負けてから 1 年ほどの、大変な時代に役場から出た文書であり、それを読むと、いろいろなことが感じられる。非常に貴重なデータだと考えている。

また、先ほど少し話が出たが、町が集めている絵画などの資料である。データ化されていると聞いているが、蔵入りしてしまっていて、一般の人には見られない状態である。それではもったいない。例えば、水ばしう絵の会による絵画展が今年も行われたが、そうしたときに、町が所蔵している絵画も一緒に出して、町民が見られるような場をつくっていくことが大事だと思う。

●めむろ歴史探訪会

私は芽室出身ではなく、外から来て今ここに住んでいるが、史跡を見ると「ああ、こういうことがあったのか」と分かる。今の芽室はそうした過去の積み重ねの上にあると感じているが、遺跡や史跡は、そのうち無くなってしまう。

私が作った一覧表の中には、十勝鉄道が芽室を走

っていたという項目があり、嵐山という名前も出てくる。これは十勝鉄道から来た名前で、観光地の嵐山ともつながっている。今の地名も、歴史の中から出てきている。鹿迫に調査に行ったが、鉄道や史跡がきちんと残っている。それほど多くはないが、会員からも鉄橋の跡があるという話も聞いている。芽室のそのような歴史をきちんと調べて残していくことは、大事だと思う。

前回の意見書の中にも書いたが、西士狩の鈴木銃太郎など、開拓に関わった人たちの標柱がきちんと立っている場所もある。そういうものも大事にしたい。ただ残念なのは、そのすぐ裏手のところに西士狩の開拓記念碑があるが、そこには銃太郎などの名前が書かれているものの、そのそばに標柱や説明板があれば芽室の歴史的な発祥の地なのかがもっと分かると思う。私有地の問題もあると聞いているが、大事な場所には、できるだけ案内板を設置できるとよいと思う。

●まちづくりプラットホームめむろ

バスツアーについては、これまでは支援センターの人まち育て助成金を活用してきた。内容を少しずつ進化させながら申請されており、審査会でも 5 人の審査員の方から良い事業だと評価されている。ここまでくると、私たちも非常に公益的な事業だと感じている。町からの助成金として決まっている 40 万円を超える規模になってきているので、より公益的な事業として、町と共同で開催する形も考えられるのではないかと考えている。生涯学習課とも協議しながら、共催事業としての位置付けなど、制度設計を考えていただければと思う。

●町長

歴史を伝えていくということは、役場だけではできない部分も多い。皆さんのような団体をお願いしなければ成り立たないところがある。そういった意味で、今のお話のような事業は公益的なものとして位置付けることも一つの考え方だと思う。具体的にどこまでなどは今ここで言えないが、そういう感覚は持っている。

絵画の話は、何かの行事やイベントのときに、所蔵している絵画を一時的に展示するというやり方は良

いかもしれない。そのような機会を通じて、町民に見てもらえるなら、それは良いことだと思う。絵画の所蔵数はかなりあり、公共施設や学校に飾ってほしいという声も多い。一方でどれをどこに飾るか、また、どう選ぶかという悩みもある。基準や公開するタイミングを決めて、何かの節目に展示していくという考え方は良いかもしれない。町民文化展の一部に展示するのも方法としてはある。

●まちづくりプラットホームめむろ

水ばしょう絵の会や絵画団体の方達からも、文化展の特別展として町の所蔵作品と一緒に展示したいという話を聞いている。選ぶ作業や展示には、ぜひ関わりたいと話していた。

分野に関係なく、別の会場でもいいが、いろいろな資料や作品が表に出て、町民の目に触れられる機会を作ることが大事だという声は、あちこちから出ている。ぜひ検討していただきたい。

●町長

案内板の関係は、前回の平成30年の意見交換の時もそうだったが、やれるところから検討してやっていくという姿勢で、引き続き対応していきたい。看板や案内板を作るということになると、敷地の問題もあるし、何より作った後の維持管理という作業が必ず出てくる。そこをどうするかを考えなければいけない。役割分担として、例えば土地所有者や関係団体をお願いできる部分もあるかもしれないし、公が全てを維持管理することが難しい場合もある。設置までは町でやるにしても、その後どうするかという点も考えていきたい。

最近は強風被害も多く、看板や木が倒れてしまうこともある。そうしたリスクも含めて、引き続き検討させていただきたい。

また、歴史探訪会の皆さんに一つお願いしたいことがある。130年誌の件である。120年の時にも、式典を含めて記念誌をどうするか検討したが、最終的には見送った経緯がある。130年も見送ることにはならないと考えており、式典は準備すれば何とかなると思っているが、記念誌は相当時間のかかる仕

事であり、役場だけで担えるものではないと思っている。130年誌編集を担っていただける団体として、町内では歴史探訪会しかないのではないかと考えていて、時間的には少し遅いかもしれないが、お願いしていきたいという想いがある。最短でも5年くらいはかかるという話を聞いていて、今は2025年で、130年の節目まではあと5年しかない。場合によっては、その年に完成しなくても、少し遅れてもよいから130年誌というものを町としてしっかり作るという考え方もあると思っている。このような場をお願いするような形で申し訳ないが、今日来られると伺っていたので相談したいと思っていた。

●めむろ歴史探訪会

上土幌町は元教員の方が専任で3年ほど下調べや調査をしたと聞いている。最近では新得町が発行したが、役場の歴史に詳しい職員がやはり3年くらい専任で編集していた。そのような中心になる人が必要だと思う。

●町長

町としてやらなければならない仕事なので、全部丸投げするという感覚はない。キーパーソンが必要であれば町としても配置していく。

●めむろ歴史探訪会

やはり文章をまとめられる人が中心となり、それに対して我々が資料提供や助言等を行っていくという形が現実的。高齢化もあり我々が全てを担うことは難しい。

●生涯学習課長

過去に100年史を作ったときも、編集委員がいて、文章を書く人、その周りを固める人、各分野に詳しい人などを集めて、一つの編集チームのような形で進めていた。そのやり方が望ましいと考えている。

●町長

130年誌となると、生涯学習課だけでなく、町長部局である総務課の仕事になる。この後、内部でも話をしていくので相談に乗っていただきたい。

◆3団体からの共通の質問/提案

- ①町の行う文化事業について、どのような指針を持っていますか。
- ②町内の文化財について、どのような方針をもって保存し、活用していきますか。
- ③町民が自主的に取り組む文化活動について、町長はどのように感じていますか。

●町長

①に関して端的に言えば、文化事業に特化した単独の指針は現時点では持っていない。ただし、どの分野もそうだが、芽室町第5期総合計画があり、その下部計画として教育振興基本計画や、社会教育分野での芽室町社会教育推進中期計画などがある。文化事業に関する考え方は、これらの計画の中で位置づけられている。この総合計画が、来年度から第6期に移行するタイミングであるので、その時点で改めて文化事業に対する考え方を整理していく形となる。

②に関しては、先ほども触れたが、指定文化財という狭い枠だけでなく、文化的な作品という広い感覚で捉え、進めていきたいと思っている。計画的には、先ほどの社会教育分野の計画の中にどう盛り込むかというのが今後のポイントになると思っている。文化財という点では芽室遺産や歴史的建造物なども含められると思うが、そのようなものをどう見ていくかという視点が必要になる。その際にはどこまでを対象にするかという線引きも避けて通れない。ある人にとっては文化的に見えるものが、別の人にはそう見えないということもあり得る。そのような難しさはあるが、基本的には、総合計画や社会教育計画の中にどう盛り込むかがポイントになる。

③に関して、文化団体を含む町民活動団体を見ていて強く感じているのは、「会員数の減少」「高齢化」「役員のなり手不足」「次の世代に継承できない」といった課題があると思っている。文化全体の担い手が今後どうなっていくのか、非常に危惧しているところである。

また、団体に全てを任せるのでもなく、一方で、行政におんぶにだっこでもなく、役割分担をどうするかが重要だと思っている。お互いが「丸投げ」や「寄

りかかりすぎ」にならないようにしないと、長続きしない。行政がどんどん支援すれば、その時は良く見えるかもしれないが、将来、行政側の支援が難しくなった途端に事業が続かなくなるリスクもある。そのような意味で「役割分担」と「持続可能性」を意識したやり方でやっていく必要があると感じている。

●まちづくりプラットホームめむろ

次に、共通の提案として出されている「史跡・記念碑や彫刻などのアート作品を掲載したマップを、行政と町民の協働で作成したい」という件について。先ほども触れた点ではあるが、マップ作りには「何を文化と捉えるか」「どこまでを載せるか」という線引きが必要になるとの話が出ているが、その辺りの詳細をお聞きたい。

●生涯学習課長

マップは、令和の初めくらいに作ったことはある。ただ、それが皆さんとの話し合いの中で作られたのかという点は少し分からないところがあるので、どこまでを文化と捉え、マップに載せる範囲はどこまでかというところを話し合って作っていく形にしたい。せっかく作ったのに「ここが載っていなかった」とか「この分野だけ濃いけれど、他はどうなのか」といった話は、どうしても出てくると思うので、話し合いながら目線合わせをして進めていきたい。文化は本当に範囲が広いので、広く浅くなる可能性もあるが、それでも色々な方が見たときに「良かった」と思っていたけるようなものを表現できたら良いと思う。

●まちづくりプラットホームめむろ

マップを作るという話になった時に、どのような目的で作るのかという話があった。目的の一つ目は、町の財産として残すことだと思う。町にあるものを、これは財産だときちんと公に記録する。今は公に記録されていないという課題があるので、そこが一番だと思う。

二つ目は、観光の問題。そのようなマップがあれば、外部の人たちに対して芽室の魅力はこういうところにあると伝えられる。それから、町民自身にとっても意味

がある。昔の知らないことや、つい最近のこととっていたことが、もう歴史の中の一コマになっている。町の人にとっては当たり前でも、外から移られてきた人は分からないことがたくさんある。そういう人たちが「芽室にはこういうことがあったのかと知れるものにもなる。

何より、後継者である子どもたちに、芽室のことが伝わっていない部分もある。それらを伝えていく道具にもなると思う。

もちろん、それぞれの団体が「こういうものが欲しい」「こういうものをマップに載せてほしい」という希望はあると思う。ただ、それだけではなく、色々な分野で使えるものとして作られていくと良いのではないかなと思う。そうすると、多様な人たちの意見を聞きながら「これも含めたら良いのではないかな」等といった議論も生まれる。そのような議論の中で、皆で「こういうものを大事にしたい」という機運が生まれてくるのだと思う。

そのような意味でも、マップ作りはすぐに紙のマップとして完成させるのか、まずはホームページで見られるような形から始めるのかといった選択肢があるが、そのための話をする事自体が、皆で「何が財産なのか」を確認していく過程になっていくのだと思う。

急ぐことよりも、丁寧に進め、その過程で応援していく人たちが膨らんでいくような取り組みができれば、私としてはいいなと思っている。

●めむろ彫刻をめぐる会

私たちの会は、まだ3年目であるが、彫刻のマップ作りをして、皆さんに実際に巡ってほしいという想いがある。細かい話で恐縮だが、マップもA4サイズのような大きめな形だと、その場では使うものの、結局保存されなかったり、持ち帰っても大事にされにくかったりする。一方で小さく折りたためるような形だと、マップを使った後も携帯しやすく、持ち運びも便利である。会の中では、そういう形で作りたいという話をしている。

今回、一緒にお話をする中で、彫刻について改めて気づいたこともあった。そういう意味でも、皆さんと一緒にマップを作れたらいいと考えている。

●町長

今の色々なお話を聞いていると、まずはデータベ

ースを作らなきゃいけないと感じた。それと、やはりこれからはデジタル化が必要だと思う。特に若い世代に届くようにするためには、デジタルで管理することが大事。ただし、紙ベースと並行する時代もあるべきだと思い、今は過渡期と捉えている。

例えば、話が少し変わるが、Mカードを始めた時は高齢者はMカードなんて使えないと言われていた。でも今は、60代、70代の人でもMカードをアプリに入れ使っている。携帯がスマホになって、最初は使っていない人もいたが、今はいわゆる高齢者と言われる65歳以上の人でも普通にスマホを使う時代になってきている。だからといって何でもデジタル化して出せばいいということではない。紙ベースのものも必要。しかし、選択肢を広げることはやっていかなければならないと思っている。

その初めのスタートとしては、過去のをまずデータベース化することが必要だと思う。その作業を生涯学習課だけでなく役場全体で進めていけるかどうかポイントである。紙で残すのが悪いと言っているわけではない。色々なご意見はあると思うが、デジタル化は大事だと思う。デジタル化がメインというよりも、まずはデータベースを整理することが必要だということである。

●まちづくりプラットホームめむろ

データベースができてしまえば、そこから先は色々な形態で展開できる。

このデータベース化を進めていくという話は、いつになったらやるのかという話になってしまっても困るので、かなり早い時期に、まずどのようなところから始めるかという打ち合わせができればいいと思う。その時には、関係するところに集ってもらい、そこから後で人を増やすなども考えられると思う。まずは一歩動き出すための場を、早いうちに作っていただければ、具体的な動きが見えてくるし、その後多少時間がかかったとしても動いているという状態が作れるのではないかなと思う。

●町長

今日の内容はボリュームが大きいですが、記録を残し

ているので、その中で、緊急なものとそうでないものを分けてポイントを絞っていく。そうすると、何点か課題が浮かび上がってくるはずで、その中にデータベースの話も入ってくると思う。そして、これは庁舎内全体と、教育長にも共有したうえで進めなければならないので、その動きはぜひやりたいと思っている。

●めむろ歴史探訪会

先ほど130年誌の話もあったが、それぞれ共通するものがあると思うので、それと並行してやっていくべきだと思う。

●まちづくりプラットホームめむろ

共通の提案として、ホームページや図書館、ねんりんなどで文化財・郷土史に関わる情報を集積し、多くの人が活用できるようにしてもらいたいという話があった。これは、主にデータベースの活用の話である。

例えば今実際に行われているねんりんなどでの取り組みも、情報を集めるだけではなく、それを必要としている人たちに届くように活用してもらうところまで持っていきたい。図書館の所蔵資料やロビーの活用の問題も同じで、集めた情報がもっと活用され、そこで展示されたり、また関わる団体がその場を使えたりする形にできれば良いと思う。



12時10分終了